

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月22日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21720005

研究課題名（和文） 「功利主義 VS 直観主義」論争の変遷と現代倫理学における直観の方法論的意義の解明

研究課題名（英文） An examination of the controversy between utilitarianism and intuitionism and its contemporary significance

研究代表者

児玉 聡 (KODAMA SATOSHI)

東京大学・大学院医学系研究科・講師

研究者番号：80372366

研究成果の概要（和文）：本研究では、「功利主義 vs 直観主義」という対立軸を中心に据え、ベトナム以前から現代にいたるまでの二つの倫理理論の論争を俯瞰的に再検討し、論点整理を行った。また、今日の公衆衛生に関する規範理論的な基礎付けという問題を考察し、功利主義が重要な役割を果たしうることを示唆した。さらにこれまでの研究を踏まえ、カントが功利主義に与えた影響という、今後の重要なテーマについて研究を着手し、国際学会で報告を行なった。

研究成果の概要（英文）：This research project examined the relationship between utilitarianism and intuitionism from both historical and contemporary points of view. This research has shown that utilitarianism can play an important role in contemporary bioethics, especially in the emerging subfield of public health ethics. Furthermore, this research has brought about an important research question of how far and in what ways Kant's moral philosophy influenced utilitarianism.

交付決定額

(金額単位：円)

|        | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2009年度 | 300,000   | 90,000  | 390,000   |
| 2010年度 | 600,000   | 180,000 | 780,000   |
| 2011年度 | 300,000   | 90,000  | 390,000   |
| 年度     |           |         |           |
| 年度     |           |         |           |
| 総計     | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、哲学・倫理学

キーワード：倫理学、功利主義、直観主義

## 1. 研究開始当初の背景

今日、功利主義は義務論と対比されて論じられる傾向にある。だが、その場合、行為の結果よりも動機や意図を重視するカント倫理学との対比が強調され、功利主義が長年にわたって論敵にしてきた直観主義との対比が見えにくくなってしまふ。現代にいたるまでの功利主義の思想史的展開を明らかにするには、功利主義と直観主義という対立軸を

中心とし、以下のように論点を整理する必要がある。

(1) 功利主義は、合理的な道徳理論であることを標榜し、直観主義を非合理的な立場として批判してきた。

たとえば功利主義を最初に定式化したベトナムは、「直観主義」という言葉こそ用いなかったが、シャフツベリやハチソンやバトラー、クラーク、プライス等のそれまでの英

国の主要なモラリストたちの道徳理論を、当人の是認と否認の感情を究極の基準とする「共感と反感の原理」に他ならないとして、すべて切って捨てた(Bentham 1789)。ベンタムにとっては、行為の帰結の評価によって判断する功利主義こそが、唯一客観的で一貫して採用できる法と道徳の原理であった。また、ミルもその自伝において、リードやヒューエルやハミルトンを代表とする当時の「直観派」との自覚的な対決を通して、経験的・観念連合的な倫理学と哲学を築いていったと論じている(Mill 1873)。さらに、シジウィックも、その主著『倫理学の諸方法』において、功利主義がその基礎において「哲学的直観」を有することを認めながらも、道徳理論としての直観主義を十分に検討したうえで退けている(Sidgwick 1907; 奥野 1999)。

その後も、古典的な直観主義はムーア、プリチャード、ロスらによって 20 世紀初頭に論じられた。ムーアは、正しい行為は善を最大化する行為であるとする功利主義の基本的枠組みは維持しながらも、善は定義できず直観によって知られるのみであるとした(Moore 1903)。また、ロスは、一見自明な道徳義務は個別のケースから帰納的に知られるとし、義務の衝突が起きた場合にどの義務が優先するかは、個々の場面で直観的に知られるとした(Ross 1930)。このような直観主義の議論は、メタ倫理の領域ではマクロスキー(McCloskey 1969)などによって引き続き論じられたものの、論理実証主義によって規範的学問全体が停滞したこともあり、いったんは下火になった。

倫理学において直観主義が再び注目を浴びたのは、ロールズの『正義論』によってである。ロールズは、複数の道徳原則間の調停を直観を用いて行うという従来の直観主義を退けながらも、言語学におけるチョムスキーの言語直観の議論も参考にしつつ、正義に関するわれわれの直観(熟慮判断)と、正義原理を生み出す原初状態のあり方との間で往復作業が行われなければならないという反照的均衡を唱え、大きな影響力のある倫理学方法論を生み出した(Rawls 1971)。だが、反照的均衡という方法論については、たとえばヘアやシンガーといった功利主義者たちが、ロールズを直観主義者とみなし、道徳的正当化において直観の役割を重視しすぎだと批判している(Hare 1973; Singer 1974)。このように概観するなら、道徳の本質や倫理学方法論をめぐる功利主義と直観主義の争いは、形を変えながらも現代にいたるまで続いていることは明らかである。

(2) 現代の生命倫理やその他の関連領域においても、功利主義と直観主義の対立が先鋭化している。

生命倫理学では、シンガーやハリスやレイ

チェルズなど(広い意味での)功利主義者が活躍する一方で、彼らの議論に対する直観主義的な批判が根強く存在している(児玉 2006, 2007a)。たとえば、限られた医療資源の配分において、単純に最大多数の患者を助けるという功利主義的な考えは直観に反するとして、コストがいくらかかっても死に瀕している特定の個人を優先的に助けるべきだとする「救済原則」が提唱されている。また、臓器移植に関しても、「デッド・ドナー・ルール」(バイタルな臓器は死者からしか取ってはならない)や、死後の臓器提供の義務化といった論点に関して、直観の位置づけが問われている(児玉 2007b, 2008)。

さらに近年では、脳科学や認知心理学や行動経済学などの領域において、われわれの道徳的直観や道徳判断における理性と感情の役割に関する実証研究が進展している。シンガーはすでにこれらの実証的研究や進化論が道徳理論に与える役割についてある程度論じているが(Singer 2005)、まだこうした実証研究や理論がわれわれの道徳実践や道徳理論に対して持つ含意は十分に検討されていない。

## 2. 研究の目的

このような現状認識を踏まえ、本研究では、「功利主義 vs 直観主義」という対立軸を中心に据え、ベンタム以前から現代にいたるまでの二つの倫理理論の論争を俯瞰的に再検討し、論点整理を行ったうえで今後の展望を示すことを目的とする。具体的には、第一に、これまでの功利主義関連の思想史研究を踏まえ、「直観」をキーワードとして通史的な検討を行う。それによって抽出された論点を踏まえ、第二に、生命倫理学やその他の関連領域における功利主義と直観主義の理論的・実践的争点を明確にし、今後の課題と展望を示す。

## 3. 研究の方法

この目的を達成するために、具体的には、第一に、思想史的研究に関して、①20 世紀以前、②20 世紀前半、③20 世紀後半以降の三期に分け、これまでの功利主義関連の先行研究を踏まえ、直観をキーワードにして研究を行うことにより、「功利主義 vs 直観主義」という論争の構図を明らかにする。

それによって抽出された論点を踏まえ、第二に、生命倫理学やその他の関連領域における功利主義と直観主義の理論的・実践的争点を明確にし、今後の課題と展望を示す(④)。

(1) 20 世紀以前の功利主義と直観主義の展開と論争の研究

ベンタム、ミル、シジウィックと、その論敵を対象として文献研究を行う。Past

Masters 等のデータベースが利用可能な文献(たとえばベンタム、ミル、シジウィックの主要著作や、Selby Bigge 版の British Moralists 所収のハチソンやプライス、クラーク、パトラー等の著作)に関しては、「直観」や「直覚」等のキーワードで検索を行い、関連する議論の見落としがないように努める。また、このテーマに関する国内外の先行研究や思想史の文献(Sidgwick 1998; Schneewind 1997; Rawls 2000 等)を網羅的に収集し、対立の図式化と論点整理を行う。

#### (2) 20 世紀前半の功利主義と直観主義の展開と論争の研究

プリチャード(Prichard 1949)、ロス(Ross 1930)等による直観主義理論を、二次文献も合わせて精読し、その論点と功利主義批判の要点をまとめる。

その一方で、アームソン以降の行為功利主義と規則功利主義の発展において、どのように直観主義が影響しているか、また直観主義に対するどのような批判があるかを、ベイレス(Bayles 1980)による編著の他、主要文献に当たって考察する。JSTOR 等の雑誌論文データベースによる文献検索も行って、網羅的な文献リストを作成する。

#### (3) 20 世紀後半の功利主義と直観主義の展開と論争の研究

ロールズの『正義論』における反照的均衡をめぐる論争を中心に、国内外の先行研究を参考にしながら、直観に関する議論を整理する。とくにヘアやシンガーといった功利主義者による批判の妥当性を検討する。

また、スマート、ヘア、シンガー、ブランド、パーフィット(Smart 1973; Hare 1986; Singer 1993; Brandt 1979; Parfit 1984)などの功利主義(的)思想家の主要著作において、直観がどのように扱われているかに焦点を絞って整理する。

さらに、Jamieson (1991)、Hintikka (1999) など、直観の方法論上の役割について自覚的に論じている論文や、Dancy (1991) などメタ倫理学的な文脈での議論も見られるので、文献データベースを用いて主要な国内外の文献を網羅するように努める。

#### (4) 今日の生命倫理学における功利主義と直観主義の対立の研究、および脳科学などにおける道徳直観に関する研究とその意義の研究

上述の研究によって明らかになった功利主義と直観主義の間の論争点を念頭にして、医療資源の配分や臓器移植といったテーマにおける論争を整理し、問題解決の糸口を探し出す。それと同時に、脳科学や認知心理学や行動経済学における直観に関する研究を

サーベイして、それがこれまでの直観をめぐる議論に対して持つ含意ないしインパクトを評価する。

#### 4. 研究成果

研究全体に関する文献検索・収集を実施し、研究を進めた。その成果は、2009 年 12 月に京都大学文学研究科で行った集中講義(「功利主義対直観主義」となり、2010 年 11 月に一冊の著作(『功利と直観—英米倫理思想史入門』勁草書房)として公刊した。また、2011 年 3 月の研究会では、本書に関する合評会を行い、意見交換を行った。

また、今日の生命倫理学における功利主義と直観主義の問題について、喫煙対策を始めとする公衆衛生に関する規範理論的な基礎付けという問題を考察し、功利主義が重要な役割を果たしうることを示唆した。これについては、国内の学会や研究会で報告を行なったほか、共著書において論文を執筆した。

さらに、これまでの功利主義と直観主義の関係についての研究を踏まえ、カントが功利主義に与えた影響という、今後の重要なテーマについて研究を着手し、国際学会で報告を行ない、主要な研究者と意見交換を行なった。

この研究テーマは、カントの義務論が功利主義に対立するという従来の図式を乗り越えようとするものであり、さらなる研究の発展が期待できるものである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① 児玉聡、ハート・デブリン論争再考、社会と倫理、査読無、24 巻、2011、pp. 181-191、<http://ci.nii.ac.jp/naid/40017339685>

[学会発表] (計 7 件)

- ① 児玉聡、功利主義と公衆衛生、京都生命倫理研究会、2011 年 12 月 25 日、京都大学(京都府)
- ② 児玉聡、功利主義と公衆衛生、日本法哲学会(招待講演)、2011 年 11 月 13 日、一橋大学(東京都)
- ③ Satoshi KODAMA、Up against whom? Kant vs. Utilitarianism, 11th International Society for Utilitarian Studies, 2011 年

6月23日、イタリア（ルッカ）

④ 児玉聡、たばこ規制の倫理と論理、京都生命倫理研究会、2010年12月27日、京都大学（京都府）

⑤ 児玉聡、ロールズ正義論と直観主義道徳--功利主義者からの批判、日本法哲学会、2010年11月20日、西南学院大学（福岡県）

⑥ 児玉聡、直観主義から義務論へ、イギリス哲学会関東部会、2010年7月17日、慶應大学三田キャンパス（東京都）

⑦ 児玉聡、ハート・デブリン論争再考、京都生命倫理研究会、2010年3月20日、京都女子大学（京都府）

〔図書〕（計2件）

① 児玉聡、ナカニシヤ出版、実践する政治哲学、2012、5-34頁

② 児玉聡、勁草書房、功利と直観--英米倫理思想史入門、2010、全340頁

〔その他〕

ホームページ等

<http://researchmap.jp/read0123042>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

児玉 聡 (KODAMA SATOSHI)  
東京大学・大学院医学系研究科・講師  
研究者番号：80372366

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし